

県西教育事務所だより

未来に向かって 高い志を持ち たくましく生きぬく 人づくり
「学校に元気を 先生方に自信と勇気とやる気を 子どもたちに夢と生きる力を」 平成31年3月4日発行 (第11号)

1年間の取組を振り返り、その成果と課題を次年度につなげよう

【学習班より】「平成31年度 全国学力・学習状況調査」に向けて「学力アップ問題IX」を活用しよう

過日（平成31年2月26日付け、事務連絡）、「『学力アップ問題IX』設問別平均正答率」が公表されました。

各学校においては、「学力アップ問題IX」の結果から明らかになった課題の改善に向けて、以下のことについて計画的に、そして確実に（「いつまでに、だれが、何を、どうする」を明らかにして）取り組み、児童生徒の学力の定着を図っていただきますようお願いいたします。

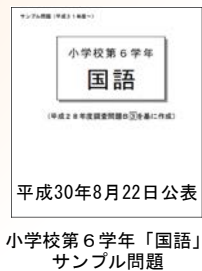
□ 「学力アップ問題IX」の結果から明らかになった課題について、焦点化を図り具体策を講じる。

・国が示している「**サンプル問題**」を解き、その状況に応じた指導を行う。

【問題の掲載場所】国立教育政策研究所>教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」>調査問題の作成方針>平成31年度調査サンプル問題

・「**学力アップ問題IXの補充指導のための資料**」を活用する。

【資料の掲載場所】教育情報ネットワーク>文書通知>お知らせ一覧>「学力アップ問題IX」補充指導のための資料



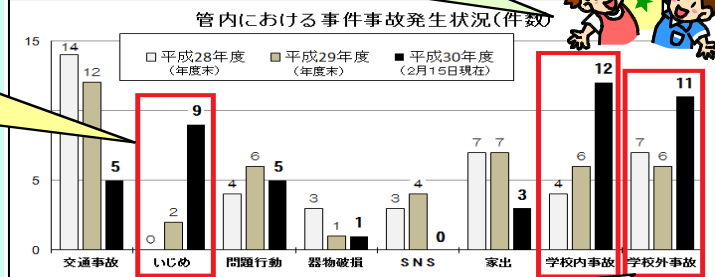
【平成31年度 全国学力・学習状況調査】に向けた授業改善のポイント(各種調査等の分析結果を踏まえて)

- 【国語】・課題を解決するために必要な複数の情報同士の関係を捉え、自分の伝えたいことが読み手に正確に伝わるようにする。また、慣用語、同音異義語の意味を理解する。
- 【算数】・根拠を明確にしながらか説明することができるようにする。（「どうしてそう考えたのですか?」「なぜ?どうして?」などと問い、学級全体で考える場面を設定する。）
- 【数学】・証明したあと、証明した内容をもう一度振り返り、条件を一部変えるなどしてできた新たな問題を、さらに証明することができるようにする。
- 【英語】・まとまった英文を聞いたり読んだりして、その内容について自分の考えを話したり書いたりすることができるようにする。

【生徒指導班より】 生徒指導の現状と次年度への準備を！～データから見る生徒指導～

平成30年度末となり、各校では次年度に向けて「振り返り」を行っているところかと思えます。右図の管内における事件事故発生状況（3年間推移）からその傾向やポイントを捉え、次年度の生徒指導に生かしていただきたいと思えます。

12件中6件が熱中症の事故と半数を占めています。
⇒各種通知や参考資料等を活用した研修の充実（熱中症環境保健マニュアル2018 環境省）



いじめに関わるトラブルについて、保護者が直接学校以外の機関に相談する案件が増加しています。
⇒「学校いじめ防止基本方針」の見直しや運用状況の再確認。
「いじめの重大事態対応マニュアル」を活用した校内研修。

担任だけが問題を抱え込むことのないよう、組織で対応していくための校内体制を再確認し、次年度の準備をしていきましょう。

11件中5件が児童生徒の虐待の通告になっています。
⇒児童虐待防止法：早期発見 児童生徒の心身の状況把握
早期対応 福祉課や児相への通告義務

【生涯学習班より】 平成30年度各市町で取り組んでいただいた主な事業について

いばらきの魅力再発見事業（平成30年度で事業が終了）

- ・作文部門(小学校の部) 参加校 65校
- ・ホームページ部門 参加校 13校

いばらきっ子郷土検定事業

- ・県大会優秀賞 結城中学校, 石下中学校, 明野中学校, 桜川中学校
- ・平均正答率 県57.5%→県西57.6%
- ・1級合格者数 県966名→県西459名

幼児教育と小学校教育の接続における研修会（151園対象）

- ・幼児教育施設参加率 H29 80.1%(121園)→H30 88.7%(134園)

家庭教育支援資料の活用

- ・「家庭教育ブックつばさ」活用率 100%
- ・「家庭教育ブックひよこ」活用率 99.3%

就学前教育・家庭教育推進のための市町村モデル事業

- ・モデル校 八千代町立川西小学校, たちばな幼稚園(八千代町)
- ・保幼小接続カリキュラムにおける公開授業、公開保育及び講演会の実施
- ・「家庭教育ブックひよこ」の実践プログラムの作成



【結城中】

【石下中】



【明野中】

【桜川中】

いばらきっ子郷土検定県大会の様子 2月2日

五霞町立五霞中学校では、「生徒が主体的に取り組む分かる授業づくりをする」を組織目標として、教育活動に取り組んでいます。また、「夢をもち、生きる力に満ちた」生徒の育成を目指し、石井加奈子教諭は体験的な授業を中心に「できた」「わかった」の達成感を味わうことのできる授業を意識して指導にあたっています。



【一手間一工夫のポイント】

～「主体的・対話的で深い学び」「できた、わかった」を実感できる
「考える生徒、認める教師」を目指して～

① 板書の工夫 (ユニバーサルデザイン)

実習や実験等の体験的な授業を多く取り入れているため、誰が見ても2時間の授業の流れや次の作業、製作過程が一目で分かるユニバーサルデザインの考えを取り入れた板書を心がけている。生徒たちは、板書を見て、作業や製作手順を確認しながら進めることができる。板書を画像で保存し、授業を振り返り、さらに改善を図ることについては、採用時から継続している。



①板書の工夫

② 主体的・対話的な授業

衣生活の製作では、進度の速い生徒や技能を習得した生徒にカードを配付し、そのカードを取得した生徒は、自信をもって進度の遅い生徒や苦手な生徒に丁寧に教えている。また、生徒同士で質問し合う姿も見られた。教えることで自分自身の知識や技能が上達することを伝えている。学び合いの中で理解を深め、技能の習得や上達も見られた。教師が一人で対応するより、苦手な生徒に対し、生徒がすぐに対応するため、技能習得は95%以上、作品の完成は100%である。



②主体的・対話的

③ 教材教具の工夫

教材教具の工夫をすることで、30名前後の生徒に対して、きめ細やかに対応、支援できるようにしている。分かりやすい教材教具の工夫を心がけ、備品として購入した学習用具はそのまま使用せず、一手間加えてから使用している。また、常に生活に課題意識がもてるよう、「気づきノート」を活用し、家庭とのつながりも大切にしている。準備を完璧にして授業に臨むことを心がけている。



③教材教具の工夫

④ 「校内ものづくりフェア」の実施 (生徒を認める)

授業で製作した生徒の作品は、毎年、保護者が来校する授業参観等に合わせ全員の作品を昇降口に掲示し、「校内ものづくりフェア」を行っている。「掲示する＝認める」ということ、そして掲示することは教師自身が生徒の作品を大切にすることにつながると考える。また、他の教職員や保護者に見てもらうことで、生徒を認め、称賛するきっかけとなる。技能教科での取組が生徒の新たな一面を発見する機会ともなり、信頼感も生まれる。生徒同士の相互評価にもつながっている。「称賛の機会」「新たな一面の発見」「ものづくりの楽しさ」「できた喜びや達成感」を味わえることを大切にしている。



④校内ものづくりフェア
～製作中の写真をそえて～

【石井教諭から】

技術・家庭科は、「実生活と密接に結びついた教科」である。授業の中だけで終わらず、知識や習得した技能を生活に生かしていくことで、生活の自立につながり、生徒たちの現在の生活と将来の生活がより豊かになることを願い、よりよい生活の実現に向けて授業を展開している。課題を出すときは、必ず、家庭や家族との「交流」が図れること、そして生徒が「考える」ように設定している。実践し生活に生かすことを家庭科の授業のゴールと考え、授業のゴールが「生活の自立」のスタートになるよう、今後もよりよい授業づくりに取り組んでいきたい。

【人事課からのお知らせ】 服務規律の確保と学校事故防止について

1 平成30年度県西管内の学校事故について(2019年2月13日現在 義務教育課報告数)

□ 速度超過 2件 □ 交通事故 7件(加害4件, 被害3件)

2 年度末年度始めに向けての確認

- ・飲酒運転の防止(送別会, 歓迎会等宴席の機会が多い)
- ・わいせつ行為・セクハラの防止(特に宴席での行動に注意)
- ・交通事故防止(特に異動により勤務箇所が変わる場合は注意)
- ・個人情報の漏洩防止(特にテスト関係データ, 指導要録の取扱いに注意)
- ・学校徴収金の適正な管理(特に業者への支払いに遅延のないよう注意)

